

プラスチックは現代社会にとって有用性の高い素材である反面、過剰な使用や不適切な廃棄により、ライフサイクルで生じるCO<sub>2</sub>排出量の増加をはじめ、マイクロプラスチック問題等生態系や環境に大きな影響を及ぼしています。

私たちはプラスチックの有用性を理解しつつも、プラスチックごみが生態系や環境に大きな影響を及ぼしていることを重要な社会課題と捉え、石油由来プラスチックの使用量削減、および資源循環型社会の構築など、企業として責任ある行動に努めます。

## 石油由来プラスチック削減への取り組み

### ● 代替素材の活用

石油由来プラスチックの使用量を削減し、CO<sub>2</sub>排出量を削減するため、商品の一部、もしくは全体にリサイクル素材やプラスチック代替素材を使用する取り組みを進めています。

適切に管理された森林から伐採された竹素材でつくられたガンダムクラフトパズルを商品化したほか、ガンブラでは、産業廃棄物として排出される卵の殻や、緑茶飲料の製造工程で排出される茶殻、木くずなど、石油由来のプラスチックに代わる様々な素材を活用しています。



緑茶飲料、木くず、卵の殻や竹素材でつくられたガンダム

### ● リサイクル材の積極的利用

(株)メガハウスでは、リサイクル素材でつくられたルービックキューブ「ルービックキューブエコ」を販売しています。本体を構成する素材も、パッケージに使用している紙も、リサイクル素材からつくられています。

またサンスター文具(株)では、再生プラスチックを活用した文具の開発に取り組んでいます。再生プラスチックが混合されることで素材表面に黒点が発生するという問題点も、印刷技術を工夫することで解決しました。



リサイクル素材のルービックキューブエコ



再生樹脂を利用したクリアファイル

### ● 景品袋の使用量削減

(株)バンダイナムコアミューズメントでは、顧客サービスの平準化と景品袋の使用量削減を目的に、同グループの(株)バンダイナムコテクニカが提供する景品袋自動販売機「フクロッカー」を、全国のアミューズメント施設「namco」に約300台設置しています。

袋の有償化により必要以上の提供抑制へとつながり、2023年度は2019年度に比べて、景品袋使用量を約67t(約464万枚)削減することができました。



## 資源循環型社会構築に向けた取り組み

### ● 循環経済へのさらなる取り組みを促すパートナーシップに参加

バンダイナムコグループは、循環経済への取り組みを促進する官民一体の枠組みである「循環経済パートナーシップ(J4CE: Japan Partnership for Circular Economy)」に参加しています。

本パートナーシップは、循環経済への流れが世界的に加速する中、企業を含む幅広い国内関係者の循環経済へのさらなる理解を醸成し、取り組みを促進することを目的として、官民連携を強化すべく発足されました。

バンダイナムコグループではJ4CEメンバーとしての活動を通じて、循環経済に関する情報共有ネットワークの形成をはかるとともに、循環型社会の実現に向けた取り組みの加速を目指しています。



### ● 「ガシャポン」カプセルのリサイクルを推進

バンダイナムコグループでは、2006年から「ガシャポン」のカプセルの回収・リサイクルを実施しています。さらに2021年には、取り組みをさらに拡大すべく、(株)バンダイ、(株)バンダイナムコアミューズメントおよび(株)バンダイロジパル3社合同での「ガシャポンカプセルリサイクル」を開始しました(2023年度回収実績:約42トン)。

回収した空カプセルは、カプセルの原料となる「ペレット」(リサイクルペレット)の状態に戻され、通常の「ペレット(バージンペレット)」との混合、成型を経て、再びカプセルとして生まれ変わります。

現在リサイクルペレットは約20%の割合で配合されています。また、「ガシャポンのデパート」「ガシャポンバンダイオフィシャルショップ」では、空カプセル回収ボックス「ガシャポイントステーション」を施設内に設置し、お客様に楽しんでいただきながら空カプセルを回収できるよう工夫しています。

そのほかにも、従来2種類だったカプセルの構成素材を、リサイクルしやすいポリプロピレン1種類にするといった改良も行っていきます。

